

プロジェクト名：ブルキナ・ファソ国コモエ州森林管理計画事前調査(事前調査)

(調査期間：2001年12月～3カ月、担当業務：参加型開発)

調査背景

ブルキナ・ファソ国(以下「ブ」国)では、森林は主たる燃料である薪炭材の供給源としてだけでなく、食料、飼料、薬用植物等多くの非木材林産物の宝庫として住民にとって重要な資源となっている。「ブ」国では保存林区を選定し森林を保全しているが、資金及び人材不足等からうまく管理がされておらず、人口増加、違法伐採や移動耕作、過放牧、野火の発生等によって、森林資源の劣化や減少が問題となってきた。調査対象地域のコモエ州は同国の南西部に位置し、年間降水量が1000ミリを越え、「ブ」国において数少ない森林が残された地域である。また同地域は、コモエ・エコシステムと呼ばれる貴重な生態系を形成し、生物の多様性及び希少種の生息等からも重要な位置付けとなっている。「ブ」国政府は1996年に国家森林整備プログラムを策定し、住民参加型の植林や持続的な森林資源利用への取り組みを強化している。コモエ州を所管する水・森林総局オー・バサン地方局は森林5カ年計画を作成し、その中で保全林区の回復/保全を提案している。しかし同計画中には具体的な対策が講じられていないため、これら保全林区を保全し持続的な利用ができるための具体的な森林管理計画を策定する事が望まれている。

調査概要

このような状況から、「ブ」国政府は2000年9月に我が国政府に対し、上記計画策定に係る開発調査を要請してきた。これを受けて、要請背景及び内容の確認と調査の範囲を確定するための事前調査団が派遣され、(1)要請背景・内容の確認を行うとともに、我が国の協力の可能性を踏まえ、(2)「ブ」国政府の関係機関と調査方針の協議、受入体制の確認等を行う他、(3)現地調査、他ドナーとの意見交換、関連資料及び情報の収集・分析を行い、本格調査のS/Wの協議・署名を行った。

担当事項

- 人口、行政制度、生計手段、地元産業、文化・慣習、女性の役割等の社会・経済状況の把握。
- 住民参加型の天然資源管理に関連する政策、計画、活動事例について資料・情報の収集。
- 国際機関、他国援助機関、NGO等による天然資源管理分野での協力状況の把握。
- 参加型開発、村落振興、環境保全及び資源管理のための普及・啓発活動に関し、資料・情報の収集を行い、本格調査における住民啓発の検討手法について検討する。
- 本格調査における社会経済調査の現地再委託先候補機関に関する情報の収集、見積りの入手。

